

5月30日、アメリカ金環日食速報

大 越 治

今年の5月30日、メキシコからアメリカにかけて金環食が見られました。金環食といっても、太陽の視直径と月の視直径がほとんど同じなので完全な金環にはならず、いわゆるベリリービーズが見られるような日食です。この日食に対して次のツアーが募集されました。

(主 催)	(期 間)	(観 測 地)	(募集人数)
近ツリ虎の門営業所	5月28日～6月3日	ピーターズバーグ	50人
近ツリサンシャイン営業所	5月28日～6月4日	ピーターズバーグ	15人
JTB営業第6課	5月28日～6月5日	アトランタ	30人
〃	5月27日～6月3日	ピーターズバーグ	—
アイ・ジェイ・トラベル	5月29日～6月6日	リッチモンド	—

4月末までの段階で、どのツアーも人数が集まらず、不成功となりました。そこで、すでに各ツアーに申し込んでいた参加希望者がひとつにまとまり、5月の連休あけに観測隊を結成することになりました。結局、日本からこの日食をめあてに渡米したのは、この観測隊の14名とそれとは別に天文ガイドの取材チーム2名の計16名のようにです。

旅程は次のようなものです。

- 5月27日(日) 成田出発、シアトル・シカゴ経由でワシントンへ
- 28日(月) ワシントンでスミソニアン博物館見学
- 29日(火) ピーターズバーグで観測地下見
- 30日(水) 日食観測、リッチモンド天文協会との交歓会、バージニア科学博物館見学
- 31日(木) ニューヨークでヘイデンプラネタリウム見学
- 6月 1日(金) ニューヨーク自由行動
- 2日(土) ニューヨーク発、シアトル経由
- 3日(日) 成田着

この週は北アメリカ大陸の北東側に大きな低気圧があり、合衆国をタテに貫くような寒冷前線が東に移動している時でした。ちょうど30日に前線がぬけるかどうか、ぎりぎりのところだったのです。もちろん29日の下見の日は雨でした。

30日の朝も激しい雨。リッチモンド天文協会のブリドウ博士からの伝言で、急ぎょ200キロほど南西に移動することに決め、バスでサウスポストンの町へ向かいました。サウスポストン

の町の南を金環帯が通ります。第一接食の少し前に到着、かなりの晴れ間があります。機材の準備をしている間に太陽は欠け始めました。うす雲の中を、太陽はだんだん細くなってゆきます。高度は約74度。ほとんど真上を感じるほどです。カメラのファインダーをのぞくのが苦しくなります。極軸あわせが不十分なので、時々調節しなければなりません。東部夏時間で11時38分すぎ、あとわずかでベイリービーズ……という所で厚い雲が細い太陽をおおいました。シャドーバンドは見えません。本影錐もわかりません。あたりはかなり明るいままです。(パカチュンカメラの露出計が正常に作動するくらいの明るさだったとか) そして、雲がどいた時にはすでに金環食は終わっていました。雲がかかっていたのは、ちょうど30秒間でした。その後、空はしだいに良くなり、第4接食まで観測して機材を引き上げました。

残念ながら観測は失敗です。しかし、14名の観測隊はそれほどがっかりせずに帰ってきました。それは、スミソニアン博物館のものすごさ、ブリドウ博士との交流、バージニア科学博物館でのデジスター見学、ヘイデンプラネタリウムで舞台うらのうらまで見せてもらったことなどなど。日食の失敗を十分おぎなえるだけの経験をしてきたからでしょう。

この夏ごろには、報告書ができあがるはずですが。観測そのものは失敗に終わったものが多いのですが、めったにないめずらしい日食に、みんながどのように取り組んだかということは、貴重な資料となることでしょう。